

平成20年度第3回 産業応用部門論文委員会主査会議議事録（案）

1. 日時 平成20年8月29日（火） 13:30 - 15:00
2. 場所 電気学会産業応用部門大会 第1学習室
3. 出席者(敬称略)
林（編修長，青山学院大学），大石（編修長補佐，長岡技術科学大学），五十嵐（D1副主査，富士電機デバイステクノロジー），大山（D2主査，東京工科大学），織田（D2副主査，松下電器産業），山崎（D3主査，千葉工業大学），松岡（D3副主査，東芝），松井（研究調査研究委員会，東京工芸大学），竹下（ゲストエディタ，名古屋工業大学），山下（ゲストエディタ，NNTファシリティズ）
4. 提出資料
20-3-0 議題票（五十嵐）
20-3-1 前回議事録（案）（五十嵐）
20-3-2 電子査読システムの運用状況（大石）
20-3-3 D部門誌「PCC-Nagoya」特集号報告(竹下)
5. 議事
 - 5.1 前回議事録の確認（資料20-3-1）
 - ・ 予めメールで配信済み議事録について承認された。
訂正箇所は，「回転機研究会」特集号は，「回転機技術特集号」である。
 - 5.2 前回主査会以降の処理事項
 - ・ ERI発表論文特集号への投稿において，2件のD判定があった。
1件はInvited Paper の投稿であり，1件は査読判定があいまいとの指摘があった。
英文論文においては，簡易マニュアルを作成し，ホームページに掲載し注意を促す。
特に，英文論文は「C」判定がないこと，修正論文の書き方で修正箇所を明確にすることを記載する。
 - ・ 論文の査読結果において，AD，BD判定の論文については，判定結果を明確になるよう，幹事が照会文に補足する。
また，困った時には編修長に相談し，著者に返送しないで第3者に査読依頼するなどの臨機応変な対応をすること。
 - 5.3 Extended Summary と Abstractのネイティブチェックについて
 - ・ 10月以降の掲載決定論文については，ネイティブチェックが実際される。
これに先駆け，10月号会告に宣伝記事を掲載する。記事には，1回の問い合わせは無料，ネイティブチェックの結果を反映させるかは著者判断によることを明記する。
 - 5.4 産業応用部門大会 論文委員会意見交換会の連絡
 - ・ 8月29日実施された 産業応用部門大会 論文委員会意見交換会の内容を論文委員に報告するため，以下を実施する。
 - ① 意見交換会で使用した資料のホームページへの掲載。掲載資料は，意見交換会担当

(D1主査代理 五十嵐) より、広報担当の山下ゲストエディタに提出する。

② 意見交換会の概要をまとめた記事を作成し、論文誌のニュースレターとして掲載する。原稿は、9月中旬までにD1主査代理 五十嵐が作成し、林編修長にチェック後、広報担当の山下ゲストエディタに提出する。

- ・ 意見交換会の案内が、システムの問題で発信されなかった問題がある（自分の所属する部門以外には発信されない）。この改善を、システム担当者に林編修長、D1主査より連絡する。

5.5 電子査読システム運用状況について（資料20-3-2）

- ・ 資料に基づき、大石編修長補佐より説明があった。受付論文数は、20年度1月-8月でD1:58件、D2:55件、D3:24件である。
- ・ 英文論文誌は、D1:6件、D2:5件、D3:6件である。

5.6 D部門誌「PCC-Nagoya」特集号報告（資料20-3-3）

資料に基づき、竹下ゲストエディタより説明があった。

- ・ D部門誌「PCC-Nagoya」特集号で投稿された論文は、12月号に掲載される論文をもって全て完了した。投稿数は44件、掲載数は28件である。
- ・ 国際学会の特集号がある場合は、投稿論文が集中するため臨時の幹事、論文委員を追加するなど、幹事、論文委員の負担を軽くすることの意見が出た。

5.7 レターの査読期間短縮について

レターの投稿数が減少しているが、これは査読期間が一般論文と大差ないためであるとの意見がある。レターで投稿された論文の査読期間を短くするため、幹事より査読期間の短縮を差読者に連絡するようにとのお願いがあった。

6. 次回開催予定

今回は以下の日程で開催することを予定する。

日時：10月7日（火）13:00～14:30

場所：電気学会会議室（市ヶ谷）

以上
五十嵐